ゆみこ先生に、2回にわたってお話を伺いました♪
種子島での教員生活の中での気づきをご紹介いただきます。

～思いを馳せる～【後編】

こんにちは。種子島中央高校で国語の教員をしています永野と申します。春は別れの季節。私が担任をした生徒たちも全員無事卒業していきました。今は淋しさを胸に、卒業した生徒たちが新たな居場所で元気にやっているかということに思いを馳せているところです。また、私たち教員は定期的に異動します。鹿児島本土でも毎年のように同僚の先生方を見送ってきましたが、海を隔てる島の別れは何とも言えず淋しいものです。そんな別れを毎年のように経験してきたからこそ島の子供たちは、強さと優しさを兼ね備えているように思うのです。

「よか馬は風に向かって立つ」

これは、種子島に伝わる言葉だそうです。強風吹き荒れる日も多い種子島。そんな向かい風にも立ち向かう強さを島の子供たちは持っている気がします。

「思いを馳せる」というテーマで2回に渡りコラムを書いていますが、この「思いを馳せる力」つまり「想像力」は他の動物にはなく、人間だけにしかない能力だと言われています。

私の好きな漢字に「恕(じょ)」という漢字があります。これは論語に出てくる漢字なのですが、孔子の弟子の子貢(しこう)が「生きるうえで一番大切なものを一言で言うと何ですか。」と問うた時、孔子が答えたのがこの「恕」でした。孔子は本当に多くのことを、こと細かく弟子に教えています。学問とは…。友人とは…。政治とは…。人生とは…。そんなたくさんのことを、たくさんの言葉を使って教えている孔子が一番大切にしていることを「一言で言うと何か」と聞けた子貢もなかなかの者ですが、それを本当に一言で「恕」と答えた孔子は何枚も上手(うわて)でさすがです。その後、孔子は続けて言います。「己の欲せざる所、人に施すこと勿(な)かれ。」(自分がされていやなことは人にはしてはいけないよ)。つまり「恕」は自分の心の「如(ごと)」く人の「心」に思いを馳せること、「思いやり」のことです。

私は種子島でたくさんの「恕」に出会いました。その存在だけで私の心を満たしてくれた担任したクラスの生徒たち。そして、私の言葉に耳を傾けてくれる、今目の前にいる生徒たち。いつも温かい眼差しで生徒や私たち教員を支えてくださる保護者の方々。私が喜んでいる時は自分のことのように喜んでくれ、落ち込んだ時にはそっと手を差し伸べてくれる同僚。一緒にお酒を飲みながら、歌ったり踊ったりしてくれる島の友達。病院の待合室で、我が孫のように私の子どもを心配してくれた島のおばあちゃん。

種子島での三年間は、楽しく、満たされる日が多く、ここでの暮らしは私に「満足できる日々の積み重ねが満足できる一生につながる」ということを確信させてくれました。残りの島での生活も楽しみながら満足できる日々を積み重ね、いつか島を離れてからもこの島で得たことを胸に、人間ならではの「思いを馳せる」という能力を大切に、そして磨きながら暮らしていきたいと思います。

永野 由美子（鹿児島県立種子島中央高校 国語教員）

種子島に赴任してこの春で4年目。夫は鹿児島市に残り、子ども2人(9歳・6歳)と一緒に「子連れ赴任」中。素直でかわいい生徒たち、とても温かい島の人たちに日々助けられながら楽しく過ごす。人生で体験できることは限りがあるが、本を通して追体験することや、想像することはできる。国語を通して、視野の広い多様性を認め合える子どもたちが育ってくれることが理想。

～表紙クイズの答え～

正解は…スウェーデン

こちらの飛行機は、北欧のスウェーデン生まれで通称、SAAB(サーブ)と呼ばれている36人乗りの飛行機です。JACでは、1992年10月に鹿児島～松山線などの地域を結ぶ4路線で運航を開始しました。JAC運航開始当初のキャッチフレーズは、『ヨーロピアン・スタイリッシュ』で、以降、約27年間地域の翼として活躍しました。2019年内には最後の機体が、惜しまれつつもJACから引退する予定です。

引退までの残りわずかとなりましたが、空港でみなさまにお会いできることを楽しみにしておりますので、是非、遊びにきてください。そして、SAABのフライトをお楽しみください!!

鹿児島空港を中心に11機のSAABが活躍しました。

27年前のSAABデビュー当時の時刻表。

あまみシマ博覧会においでよ♪

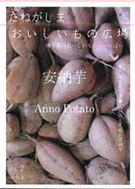
今年もいよいよ始まりました「あまみシマ博覧会」は、大人から子どもまで楽しめる体験型のイベントで、奄美大島・喜界島・徳之島・沖永良部島・ヨロン島にて、あわせて155のプログラムが開催されます。期間は、2019年7月1日～2020年3月31日までです。地元の方とふれあいながら、さまざまな自然文化体験をすることができます。

「ウミガメと泳ごう!」
「あやまる岬で絶景の星空を」
「奄美の原生林を散策して、珍しい生き物たちに会おう!」
「ビロウの葉でバッグづくり」
「奄美のフルーツでスイーツづくり」
「カシャの葉香るフツモチ(*)づくり」(*:ヨモギ・サツマイモ・黒糖で作る郷土料理です)
「黒糖焼酎工場見学&記念ボトル作り」
「喜界島 サンゴ礁ミニジオツアー」
「指笛教室と島スィーツで島人の仲間入り!」
「徳之島ナイトツアーで星空とアマミノクロウサギ観察」
「沖永良部でケイビング(洞窟探検)」
「与論ゴールデントライアングルツアー」 など多数

普段体験できないイベントばかり。あなたにぴったりのプログラムがきっとあるはず!英語でのプログラムもございますので、ぜひ一度「あまみシマ博覧会」のパンフレットもご覧くださいませ。

あまみシマ博覧会公式サイトはこちら(http://shimahaku.goontoamami.jp/)

【ありがとう♡】 2019年7月1日にJALグループは鹿児島と奄美大島、奄美大島と喜界島・徳之島を結ぶ3路線で、就航55周年を迎えました。



～「たねがしまおいしいもの広場」のご紹介～
種子島中央高校の情報処理科の3人の高校生とゆみこ先生が種子島の生産者のみなさんを取材し「たねがしまおいしいもの広場」という新聞を発行。種子島中央高校ホームページで公開中。本JACNOW～ゆいタイム～Vol.10搭載期間中は機内でもご覧いただけますので、お気軽に客室乗務員までお声がけください。

編集後記

「種子島の高校生が地元の生産者さんにスポットをあてて新聞を作っているらしい。1回目はおこづかいから。2回目はクラウドファンディングに挑戦しながら…」話を聞いたとき、その行動力と周りを巻き込みながら多くの人を笑顔にさせてくれるとりくみに感銘をうけた。ゆみこ先生のコラムは人とのつながりや心の豊かさを感じるとともに、挑戦しつづけるゆみこ先生ご自身の姿がにじみでている。多様な生き方、暮らし方の傍らに寄り添えるJACであり続けられるよう、私たちJAC社員も挑戦し続けていきたい。

(ゆいタイム編集員 森原)

どうぞ、ご自由にお持ち帰りください。

2019夏(ノブドウ)
Vol.10

JAC NOW ～ゆいタイム～

クイズ：この飛行機のふるさとはどこかな？

(こたえは裏面へ)

お手にとってくださり、ありがとうございます。

JACの今をお届けしようと、社員手作りの機内情報誌を発行しており、今回、第10回目の発行となりました。お客さまとつながる“結い”の時間を、そして、地域航空として各地域を“結ぶ”情報をお届けしたいという想いを込めて、ゆいタイムと名付けております。みなさまとのまたとない空の上での今日の出逢いを、ゆい“唯”タイムを通じて、優しく心つながる時間としてお過ごしいただけましたら幸いです。

ご意見、ご感想、お気づきの点などございましたら、どうぞお気軽に、客室乗務員までお寄せください。

また、バックナンバー(Vol.1～9)をご覧になりたい方も、どうぞお気軽に客室乗務員までお声掛けください。

JAC 日本エアコミューター

みなさまへ

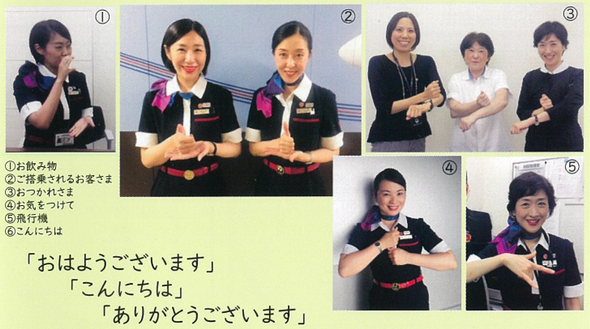
本日のご搭乗、誠にありがとうございます。6月に日本エアコミューター社長のバトンを引き継ぎました越智健一郎でございます。私共は安全運航を大前提に、これからもお客さまに安心してご利用いただけるフライトを提供し続けます。その上で、地域と地域を結ぶ役割だけでなく、触れ合う全てのみなさまにお役に立てるよう、地域のみなさまと共に発展していきたいと心から願っております。みなさまからのご意見をお聞きしながら、常に創意工夫を重ねて、新しい価値を生み出してまいります。

東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の開幕まであと1年に迫ってきました。今まで以上に海外からも多くのお客さまをお迎えします。この機に日本国内外を問わず、多くの方々に鹿児島や其々の魅力を秘めた島々へ訪問いただく機会を広げたいと思っております。歴史・文化だけでなく、温泉・自然・食事、そして何より人の温かさを感じる魅力ある地域、私だけでなく妻や娘も早々に虜になりました。多くの方々にもご当地の魅力に直接触れる機会をご提供し、忘れられない素晴らしい体験を味わっていただきたいと思います。

お客さまに喜んでいただき、地域へ貢献できる場を広げられるよう、全社一丸となって取り組んでまいります。引き続きご愛顧賜りますよう、よろしく申し上げます。

日本エアコミューター株式会社
代表取締役社長　越智健一郎

～客室部より手話の取り組みをご紹介いたします～



①お飲み物
②ご搭乗されるお客さま
③おつかれさま
④お気をつけて
⑤飛行機
⑥こんにちは

「おはようございます」
「こんにちは」
「ありがとうございます」

覚えたての手話でドキドキしながら挨拶すると、お客さまが手話で返してくださいます。
一人ひとりのお客さまと繋がることのできる瞬間が嬉しくて、私たち客室乗務員はミーティングの中で、挨拶などの簡単な手話から練習を始めました。

今はまだ初歩的な「あいさつ」の段階です。
また、毎月1回、有志で集まり耳や言葉の不自由な方と手話教室を開催し、楽しみながら少しずつ手話を覚えています。

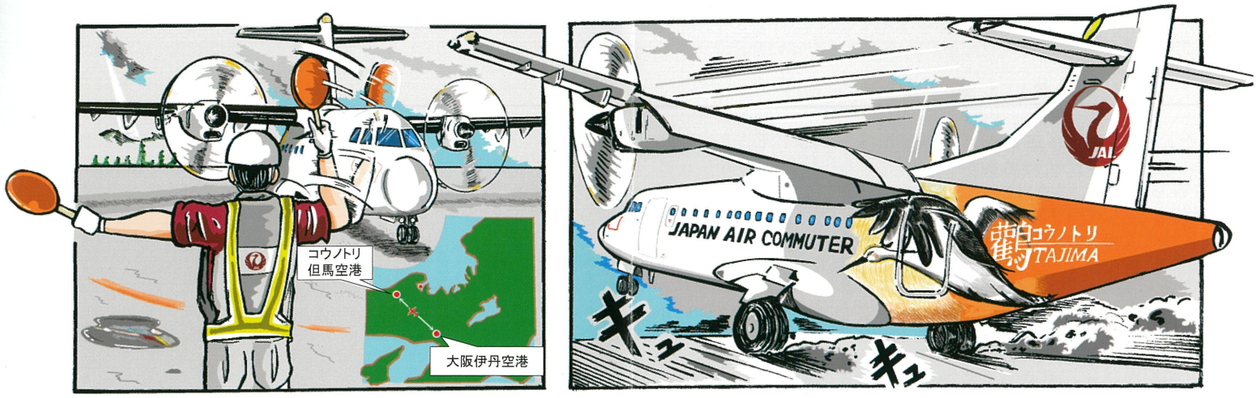
「タイミングよく、もっと気軽に、さらに安全に、お客さまにフライトで必要な情報やサービスを筆談と手話を織り交ぜてご案内できると良いな。」
私はそのようなフライトを作りたいと思っています。
本日もご搭乗くださいましてありがとうございます。
機内でどうぞゆっくりおくつろぎください。

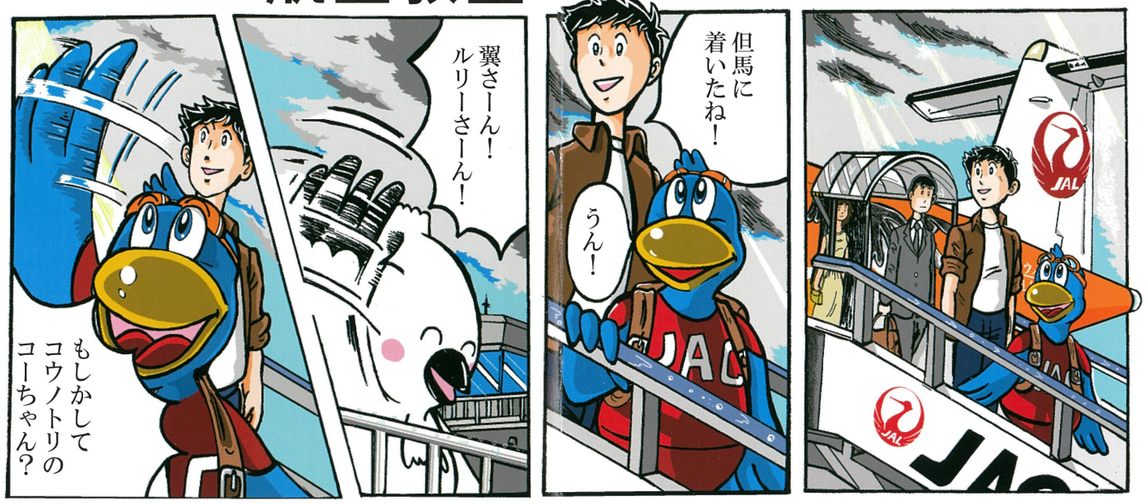
客室乗務員 柳 美鈴

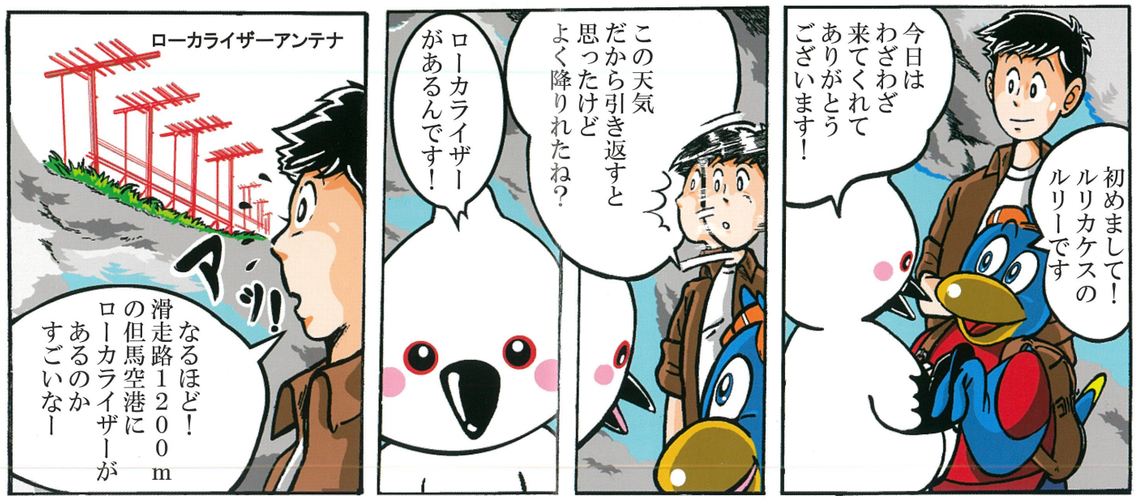
すべてのお客さまが安心してご旅行いただけるよう、空港係員、客室乗務員が必要なお手伝いや準備をさせていただきますので、遠慮なくお申し付けください。詳しくは、JALプライオリティ・ゲストサポートのホームページ(https://www.jal.co.jp/jalpri/)をご覧ください。

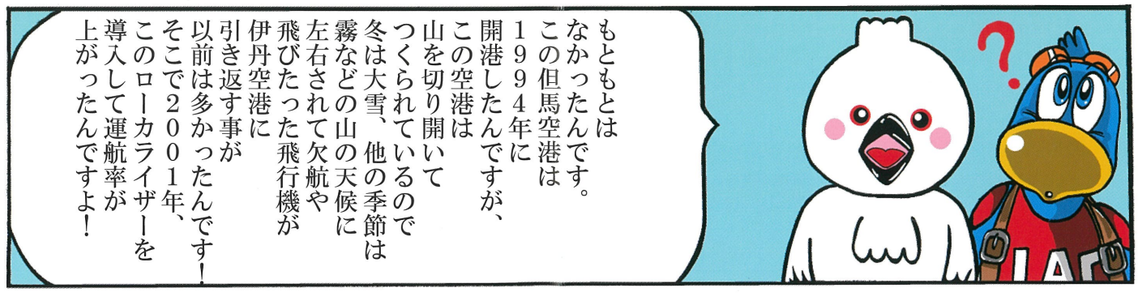
JAC 空の上の航空教室

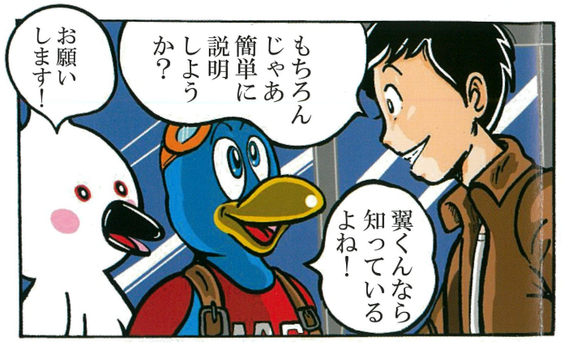
NO.10 一度コウノトリ但馬空港においでよ！

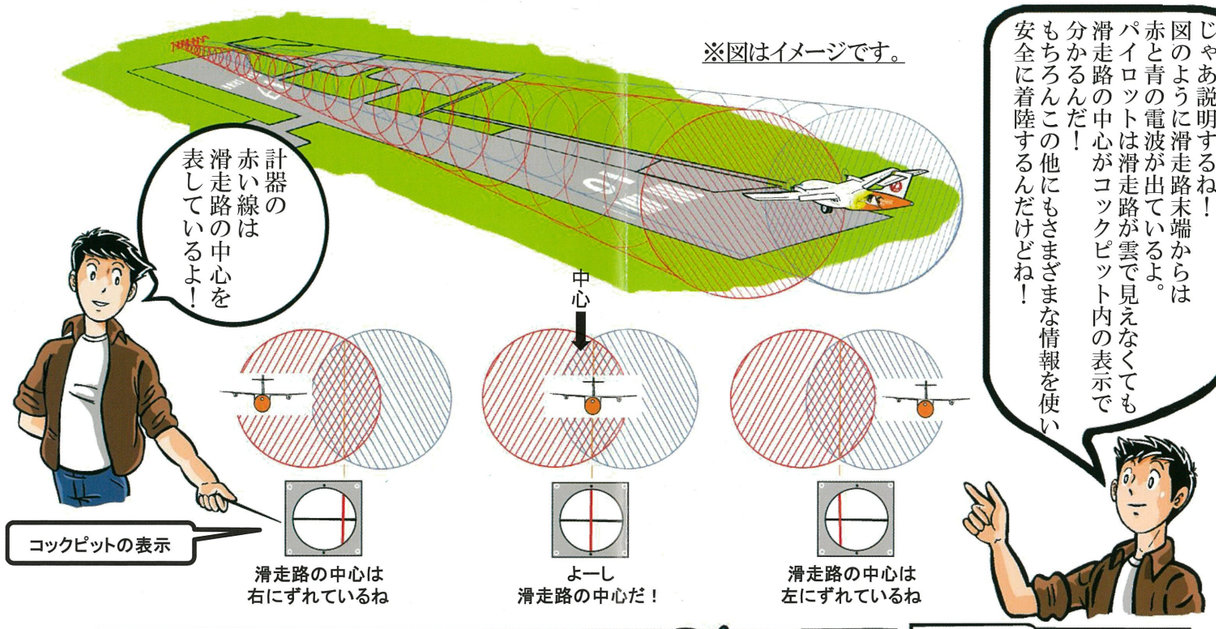


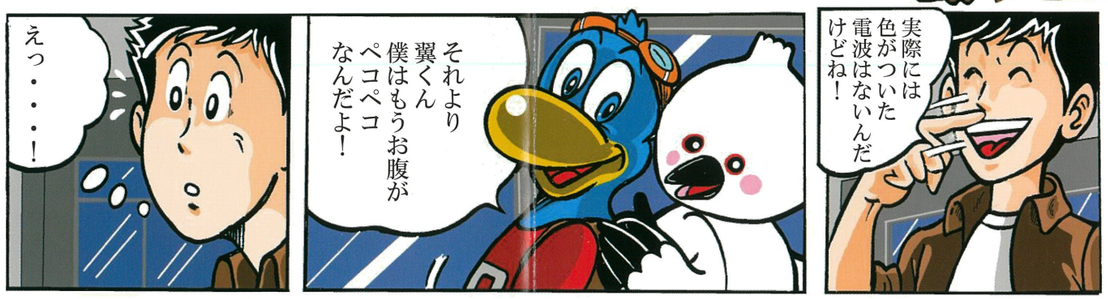


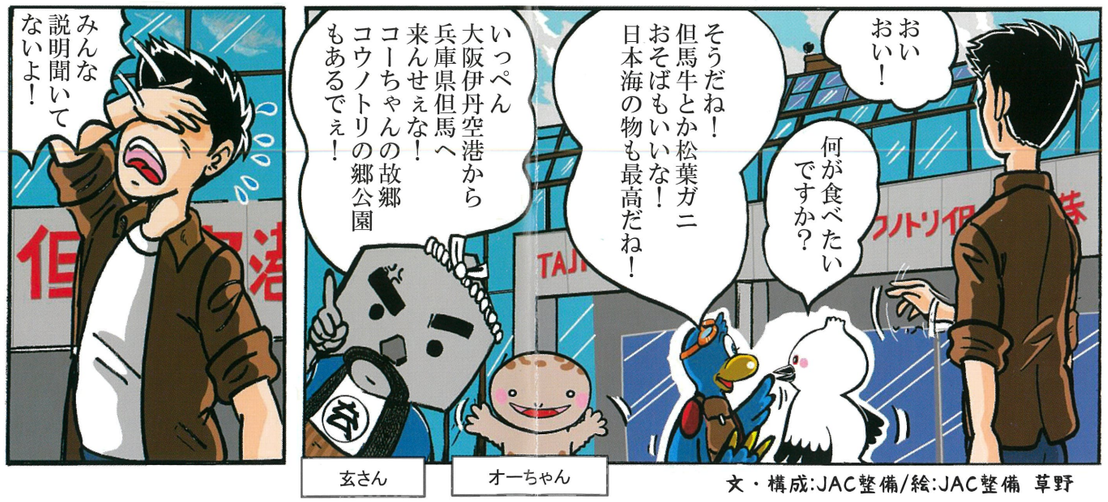












文・構成:JAC整備/絵:JAC整備　草野